



横浜国立大学教育学部

附属横浜中学校

YOKOHAMA JUNIOR HIGH SCHOOL
AFFILIATED WITH THE COLLEGE OF EDUCATION,
YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY



個性を伸ばし 考える力を育成する 充実した中学生活がここにある

学習活動の例

学習活動

横浜国立大学教育学部と連携をとりながら、最先端の教育理論に直結した独創的な教育を実践、日々の授業においては、時代をみすえた新しい研究テーマを取りあげ、意欲的な教育を開拓しています。

「リテラシー」を育成します

これからの中社会をよりよく生きるために幅広い能力「リテラシー（問題解決力、学び続ける力、感じとる力、行動する力、熟考する力）」の育成を目指しています。そして、横浜国立大学、県立光陵高等学校との中・高・大連携により、「リテラシー」の育成を重視した教育展開を進めるための「かながわの中等教育の先導的モデル」づくりを推進していきます。



理科

これまでの学習や生活経験で習得した知識や技能を活用して、自然現象の原理を追究していきます。観察、実験、話し合い、発表などの学習活動をとおして、自分たちの考えを構築していきます。

問題解決力

自ら課題を見いだし、問題に対して解決を図ることをとおして、課題を解決していく態度を育成し、課題を解決するための能力（思考力、判断力、表現力等）を高めます。



数学

思考という表に現われにくいプロセスを、4人グループで協議することで、共有していきます。

学び続ける力

充実した学習活動をとおして、学ぶ喜びを体験し生涯にわたって学んでいこうとする態度を育成します。



音楽

グループに分かれお互いの合唱を聴き合ったり、お互いに工夫し合ったりしながら、音楽作品（合唱）を創り上げていきます。

感じとる力

コミュニケーション活動の重視により、互いに問題を共有し、共に生きていくことの重要性を感じる態度を育成します。



社会

1年生歴史的分野で、十七条憲法について、どの条文が最も重要なかを班で話し合い、発表の準備をしています。

行動する力

自己理解のための活動の重視により、社会性とのかかわりの中で、自分の生き方を考える力を育成し、自己実現を図ります。



美術

個々で制作したピースを持ち寄り、共同制作のための話し合いをしています。協働的な学びをとおして、発想を広げ構想を練りながら、互いの考えを深めていきます。

熟考する力

文章や図表、現象などを理解・評価しながら捉える力や、自分の考えをまとめる力、自分の考えや意見を発信する力を育成します。



学校環境

鎌倉街道に面した校門を一步くぐると、外部の喧噪を忘れさせてくれるような静かな空間が広がっています。樹齢100年を超える木々と、シンメトリーに配された前庭をのぞむ本館校舎は、重厚で落ち着いたたたずまい。戦災をまぬがれた建物は、横浜市内でも指折りの文化的建造物として評価されています。伝統の香りと自然を兼ね備えた学習環境は“校舎”というよりはむしろ“キャンパス”という言葉が似合います。

この卓越した環境で学ぶ歓びは、生徒たちの心を豊かに養ってくれることでしょう。



▼〈ネットワーク環境〉
タブレットPCを学習の目的に応じて有効に活用しています。



▲〈校舎〉
旧横浜国立大学工学部の建物を受け継いだ校舎は、横浜市内でも有数の文化的価値をもつ建築物。2000年に、国の有形文化財に指定されました。2008年、外壁の工事を行い、リニューアルしました。

生徒会・部活動

自由闊達で個性豊かな附属横浜中学校の校風は、生徒たちによる多様な活動にも表れています。たとえば生徒会、委員会、部活動は生徒自らの創意工夫によって運営され、生き生きとした活動が行われ、実践力も養われます。



▲〈生徒会活動〉



▲〈部活動〉

放課後のひととき、思い思いの個性と創造力を伸ばし、仲間との交流を楽しむことができます。運動系7つ、文科系3つの部があります。

学校行事

学年ごとに実施される修学旅行・校外学習や、学校を挙げて行われる学芸祭、体育祭などの各種行事では、生徒一人ひとりが主体となり、自由な発想のもとで意欲的に取り組んでいます。このような行事の中で、生徒たちは絆を深めています。



▲3年修学旅行(3泊4日)
修学旅行では、本物に触れる体験を通じて、その後の自分の生き方について考えていきます。



▲2年校外学習
(2泊3日)
豊かな自然を満喫し、農家の仕事を体験します。



▲1年スキー教室(2泊3日)
スキー教室では、専属コーチによる少人数指導で、基本技術を学びます。

ICTの活用

本校では、平成23年度から電子黒板と生徒一人一台のタブレットパソコンを活用したICT教育をおこなっています。生徒同士が考えを共有したり、プレゼンテーションソフトを利用して授業内で発表したりする場面で有効に活用しています。

ICTの活用の研究成果については、今後も研究発表会などで全国に発信していきます。

国語

「意見文を書こう」
朝日新聞デジタルで最近の投書を読み、共感する投書についてその理由を分析する。



社会

「地理院地図」を使って、身近な地域の調査に活用しよう(地理的分野)



数学



デジタルペンで解いた過程をWIBに映して、説明している。

理科

「問題をつくりてみよう」
(単元「力の世界」)



学習した内容について、グループごとに問題集を作成し、クラスの友達に提出した。
他のグループがつくれた問題についての評価を「One note」に書き込む。

音楽

→「楽譜を表示して解説」
スクリーン上で記譜し修正を重ねながら、その都度、音を聴き直して確認する。



→「聴き手に伝わる表現を追求」
自分たちの演奏を録音、録画して演奏を振り返る。

保健体育



撮影した跳ぶ姿勢を見直し、改善につなげる。

家庭科

「衣服の補修」
まつり裁いやスナップつけの動画を見ながら、作業を行う。



技術科

制作したCMは、TPCをそのまま利用し、発表する。



素材の収集・動画の編集・発表まで1台のPCで行える。
また、共有スペースに保存することで誰でも作品を鑑賞できる。

英語

スピーチ練習
録音機能を使って、話しかけや発音などを確認する。



・インターネットの活用
英語のサイトを参考にして、海外の人たちの考え方を知る。

総合的な学習の時間(TOFY)

1年生
「サイバー犯罪」
・知る・まとめる・伝える
・班、学年発表



・ポスターセッション
・グラフを作成
・発表資料の作成など



グラフをPCで作成して模造紙に貼り付け



TOFY成果発表会



電子媒体だけでなく、紙媒体も併用して発表している。

協働的な学習へ



個人だけの利用にならないために

1 形態を考える
(2人で1台、4人で1台)



2 役割を考える
(例:2人一組→1台はソフト、1台はノート)



スタンドアローン
にならない工夫

3 授業方法の工夫

(説明・評価・改善等の言語活動を組み入れる)



4 アナログ(紙媒体・付箋等の利用)との協働

付箋→コミュニケーションツール
生徒プリント→共有化



教育実習

教育実習

本校では、教育学部の「教育実習内規」及び「教育実習要項」に従い、校長・副校長及び教員の指導のもとに、主に中学校教員の養成を目的として教育実習を行っています。教育実習生の指導にあたっては、社会の要請に応じ、教育界の有為な後継者として活躍できる資質を備えた教育者の育成を念頭に置いています。

その他の実習

- 基礎演習（1年） 大学1年生のための導入教育として開講される授業です。教育についての基礎的なアプローチの方法を学びます。
- 教育実地研究（1年） 大学1年生を対象とした授業観察。教育実践の場での課題を見いだし、その解決に向けた実践的学習を行います。
- 教職実践演習（4年） 大学生が教員としての自己の課題を見極め、知識・技能の定着を図るために附属学校等で観察・実践・討議を行ないます。
- 教育インターン（大学院） 学生が自らの研究目的に沿った調査や問題解決のために教育現場に赴き、実践的活動をとおして具体的に研究課題について検証を行います。

本校では、大学附属校として上記のような実習の場を提供するとともに、大学生・大学院生の指導を行っています。



教育研究活動

本校はその設立の主旨に基づき、中学校教育全般にわたって、理論的・実践的研究を行い、次の3点を教育研究の基本的使命にしています。

- 1 横浜国立大学教育学部と共同しての新たな研究開発
- 2 教育のあるべき姿の追求
- 3 全国の学校に対して、教育に関する研究成果や参考資料等の提供・発信

教育実践研究の成果を、毎年開催する本校の研究発表会において発表し、学会や教科ごとの全国大会、県等の研究会においても発表しています。また、各市町村等からの依頼で講師を務め、本校の研究成果の発信を積極的に行ってています。

本校の教育の柱

教育実習生への指導

教育現場において、生徒の実態や教育現場の実情を知り、教師として必要な資質の基礎を身につけるための指導を行っています。本校では、教育学部の学生を中心に、毎年50名超の教育実習生を受け入れており、ICT機器を利用しての授業方法も指導しています。

帰国生徒教育

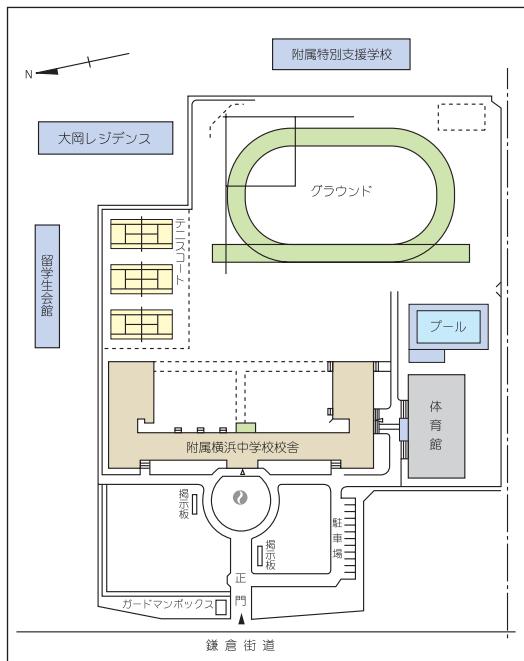
帰国生徒に対して、生活面や学習面における適応指導を行うとともに、海外で身につけた長所を集団生活の中で保持・伸長させています。また、国際理解教育の充実を目指しています。

リテラシー教育

これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を育成しています。「熟考する力」を基盤として、「学び続ける力」、「感じとる力」及び「行動する力」を育み、それらを総合して、「問題解決力」を身に付けることができるよう、3年間を見とおした教育活動全体の中で体系的な展開を進めています。

歴史

- 昭 22. 5 神奈川師範学校女子部附属小学校高等科を分離独立し、神奈川師範学校女子部附属中学校として発足。
- 昭 24. 6 校名を横浜国立大学神奈川師範学校横浜中学校に変更。
- 昭 26. 4 校名を横浜国立大学学芸学部附属横浜中学校に変更。
- 昭 41. 4 校名を横浜国立大学教育学部附属横浜中学校に変更。
- 昭 53. 4 海外帰国子女定員枠を新設。
- 昭 56. 8 中区立野地区より本大学工学部跡地の弘明寺キャンパスへ校舎移転。
- 平 9. 10 校名を横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校に変更。
- 平 12. 11 本校校舎が国の有形文化財に指定される。
- 平 16. 4 国立大学法人となる。
- 平 19. 6 神奈川県立光陵高等学校との中高提携が公示。
(平成 21 年 4 月入学生より実施)
- 平 20. 3 神奈川県教育委員会との連携型中高一貫に関する協定調印式。
- 平 29. 4 校名を横浜国立大学教育学部附属横浜中学校に変更。



教育方針

●適応

●協調

●自律

将来目指す人間像

柔軟な思考力と実践力で、これからの社会をよりよく生きるために幅広い能力を身に付けた人間

生涯にわたって活用する力、キー・コンピテンシー

●活用する能力…言語・シンボル活用能力・知識・情報活用能力・テクノロジー活用能力

●関係する能力…人間関係構築能力・協調能力・対立解決能力

●行動する能力…問題解決能力・計画実行能力・権利・責任表明能力

思慮深さ

学級編制

各学年 3 クラスずつの 9 クラス編成で、各学級の定員は 40 名。さらに各クラスに 5 名の帰国生徒が在籍する。



〒232-0061 神奈川県横浜市南区大岡2-31-3
電話 : 045 (742) 2281 FAX : 045 (742) 2522
URL. <http://yokochu-ynu.com>